

2年2組 算数科 学習指導案

1 単元名

「3けたの数」

日 時：令和6年6月13日(木) 第5校時
場 所：2年2組教室
授業者：

2 単元の目標（学習指導要領）

A (1) 数の構成と表し方（下線は本時と関わる）

(1) 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 同じ大きさの集まりにまとめて数えたり、分類して数えたりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数のまとまりに着目し、大きな数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活に生かすこと。

3 指導の立場

(1) 題材観

第1学年では、100までの数について、10まで、40まで、100までと少しずつ数範囲を拡張しながら、その読み方、書き方、及び数の大小、順序、系列について学習してきた。

本単元では、数えるものを10ずつまとまりにし、10のまとまりが10できると100のまとまりにし、さらにそれを10まとめて1000のまとまりにするという操作を通して、十進位取り記数法に着目させていくようにする。また、具体物を数える活動だけでなく、数カードを並べて、同じ数カードが10枚集まると1つ上の位のまとまりに置き換えられることを理解させ、十進位取り記数法の理解を深められるようにする。

(2) 児童の実態

本学級の児童（男子9名、女子8名、合計17名）は、どんな活動にも意欲的で、楽しんで取り組むことができる児童が多い。算数においては、苦手意識をもっている児童が多く、自分の考えをもつことができても、それを説明することが苦手な児童が多い。そのため、話型を使って毎時間繰り返すことで自信が付き、次第に積極的に発表する児童が増えてきた。つまり、考え方や計算方法などの見通しがもてると、意欲的に課題解決学習に取り組むことができる。また、課題解決に向かって時間一杯まで粘り強く取り組む姿があるので、子どもの意欲を低下させないよう、大事なポイントを提示しながら臨ませたい。

また、以下は本単元につながる既習学習について、レディネステストを行った結果である。

	問題の内容	正答数（正答率）
1	① 具体物の数を10のまとまりとしてとらえているか。	17人（94%）
	② 10のまとまりとばらで数えられているか。	15人（88%）
2	① 10が7こで□、1が5こで□、70と5を合わせた数	10人（59%）
	② 10を6こ合わせた数	12人（71%）
	③ 63は、10が□こと、1が□こ集めた数	15人（88%）
	④ 49の十の位の数字は□、一の位の数字は□	13人（76%）
	⑤ 100より13大きい数	12人（71%）
	⑥ 110より10小さい数	10人（59%）
3	① 120までの大小比較ができるか。	11人（65%）
4	① 120までの数の系列が分かるか。（数直線上の数 48）	11人（65%）
	② 120までの数の系列が分かるか。（数直線上の数 109）	14人（82%）

1の具体物の数を10でまとまりとしてとらえる問題では、ほぼ全員が10をひとまとまりとして丸で囲んでいた。しかし、2の問題では、問題文が十分に理解できていないことにより正解率が低くなった。不正解の内容を見ると、10が7こを $10+7$ ととらえ17ととらえていることが分かった。全体的に数の表し方や大小など理解度が低いため、具体物を活用しながら、十進位取り記数法の理解を深めるようにする。

4 単元の評価規準

知識・技能	3位数について、数の読み方や表し方、数の構成や大小、順序、数の相対的な大きさを理解し、数を書いたり読んだり、数や式の大小・相等関係を、不等号や等号を用いて表したりすることができる。
思考・判断・判断	10や100のまとまりに着目し、十進位取り記数法の仕組みを考え表現したり、数を相対的な大きさからとらえたりしている。
態度	10や100のまとまりに着目して数を調べた過程や結果を振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

5 研究内容とのかかわり

研究テーマ

見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

重点1 主体的に学びに向かうための学習活動の工夫

① 見通しを持たせるための導入

- ・既習内容とつなげるため、前時の問題をタブレットで振り返る。
- ・本時の課題解決につながりそうな既習事項やキーワードを確認する。

② 習熟時間の充実

全体交流で意図的指名をし、出させたいポイントを絞って行い、課題解決のためのまとめにつながるキーワードを確認する。→問題演習に10分は確保する。

重点2 対話的で深い学びにつなげる授業の工夫

① 自分の考えを分かりやすく仲間に伝えるための手立て

- ・交流する前に、課題解決に向かうためのヒントや大事なキーワードを確認する。
- ・見本となるような、話型を全体で確認してから、仲間と伝え合うようにする。
- ・ペア交流やスクランブル交流で、ロイロノートやデジタルコンテンツで自由に書き込んだり動かしたりする操作をしながら仲間に伝える。

② 全体交流のもち方の工夫

- ・本時の課題を解決するためのポイントとなる部分を確実におさえるようにするために、意図的指名を行う。

6 単元指導計画 (全12時間)

単元	時	本時のねらい	学習活動	評価規準
1 数のあらわし方としくみ	1	3位数の読み方や表し方を解する。	<p>クリップは何こありますか。</p> <p>100より大きい数の読み方や書き方をしらべよう。</p> <p>クリップの数は、100が2こと、10が3こと、1が5こと考えて、読んだり書いたりする。</p>	<p>10や100のまとまりに着目することのよさに気づき、クリップの数を工夫して数えようとしている。</p> <p>(観察・ノート)</p>
	2		<p>□の数を数字で書きましょう。</p> <p>数の書き方をしらべよう。</p> <p>10がないときは、十のくらの数字は0になる。</p>	<p>3位数の読み方や表し方を理解し、3位数を書いたり読んだりすることができる。</p> <p>(観察・ノート)</p>
	3 本時	数カードを並べて数を表すことを通して、3位数の位取りの仕組みや数の構成を理解する。	<p>カードをならべて、数をあらわしました。それぞれいくつをあらわしていますか。</p> <p>10が10こあつまったときのかずをどうあらわしたらよいだろう。</p> <p>10が10こあるときはまとめて100にして百のくりにうつす。</p>	<p>10が10こあるときは、百の位に移すことができる。また、数カードから数字を読むことができる。</p> <p>(発言・ワークシート)</p>
	4		れんしゅう	<p>3位数の各位の数字はそれぞれ100、10、1の単位の個数を示し、10以上の数が入らないことを理解し、3位数の構成を等式で表すことができる。</p> <p>(観察・ノート)</p>
	5	230などの数について、数のまとまりに着目して数の相対的な大きさをとらえることができる。	<p>10を14こあつめた数はいくつですか。230は、10を何こあつめた数ですか。</p> <p>10をもとにして、数の見方を広げよう。</p> <p>10をもとにしても、数の大きさを考えることができる。</p>	<p>数のまとまりに着目し、230などの数を10を単位としてとらえている。</p> <p>(観察・ノート)</p>
	6	数直線の読み取りを通して、3位数の大小、順序を理解する。	<p>下の数の線を見て答えましょう。</p> <p>100より大きい数をあらわした数の線の線のみ方を考えよう。</p> <p>1めもりの大きさにちゅう目すると、100までの数と同じように数の線をよむことができる。</p>	<p>数直線上に表された数を読んだり、数を数直線上に表したりすることができる。</p> <p>(観察・ノート)</p>

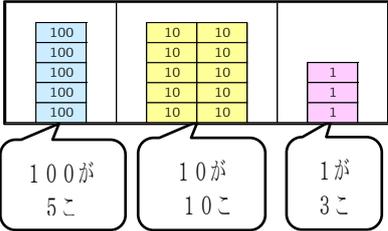
	7	1000の構成、数の読み方、書き方及び1000付近の数を理解する。	<p>下の●はぜんぶで何こありますか。</p> <p>100を10こあつめた数についてしらべよう。</p> <p>10を10こあつめると100になるのどにている。</p>	百を10こ集めた数を「千」といい、「1000」と書くこと、及び1000付近の数を理解している。 (観察・ノート)
	8	1000までの数の構成を多面的にとらえ、数の見方を豊かにする。	<p>780はどんな数かせつ明しましょう。</p> <p>1つの数についてどんな見方ができるか考えよう。</p> <p>1つの数でもいろいろな見方ができる。</p>	数の構成に着目し、1000までの数の多様な見方について考え、説明している。 (観察・ノート)
2 何十、何百の計算	9	何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を、数の構成に着目して考え、説明することができる。	<p>50+70の答えはいくつですか。</p> <p>計算のしかたを考えよう。</p> <p>10や100のたばで考えると、何十や何百のたし算やひき算は、1年で学しゅうした数のたし算やひき算で答えをもとめられる。</p>	何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を数の構成に着目して考え、説明している。 (観察・ノート) 何十±何十、何百±何百などの計算の仕方を理解し、その計算ができる。 (観察・ノート)
3 数の大小	10	不等号「>」「<」を知り、数の大小関係を式に表すことができる。	<p>3つの学校の子どもの人数をくらべましょう。</p> <p>数の大きさのくらべ方を考えよう。</p> <p>まず、いちばん大きい百のくらの数字をくらべて、同じだったら、つぎに大きい十のくらの数字をくらべればよい。</p>	不等号「>」「<」の意味を理解し、数の大小関係を不等号を用いて式に表すことができる。 (観察・ノート)
	11	数や式の大小、相等関係を不等号、等号を用いて式に表すことができる。	<p>たいちさんは、150円もっています。80円のジュースと、おかしを1こ買います。どのおかしが買えますか。</p> <p>150は80+50より大きいことを、しきであらわす方ほうをしらべよう。</p> <p>>、<をつかうと、大きさがちがうばめんもしきにあらわすことができる。</p>	数や式の大小、相等関係を不等号、等号を用いて式に表すことができる。 (観察・ノート)
まとめ	12	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。	数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 (観察・ノート)
		学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。	単元の学習を振り返り、今後の学習に生かそうとしている。 (観察・ノート)

2. 本時について (3/12)

(1) 本時のねらい

数カードを並べて数を表す活動を通して、10が10こあるときは、まとめて100にして百の位に移せば良いことに気付き、3位数の位取りの仕組みや数の構成を理解することができる。

(2) 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点
つかむ	<p>1. 既習事項の復習</p> <p>100を2こ、10を3こ、1を5こ集めた数</p> <p>100を2こ、1を5こ集めた数</p> <p>2. 問題を把握する</p> <p>たいちさんは：100が8こ、10が4こ、1が7こで847 (八百四十七)</p> <p>課題：10が10こあつまったときのかずをどうあらわしたらよいだろう。</p>	<p>【実態把握 1-1】</p> <p>前時の復習をして、数字と漢数字で読めるようにする。また、何のまとまりがいくつあるかも確認する。</p>
ふかめる	<p>3. 個人追究</p>  <p>・10が10こで100になることに着目する。</p> <p>4. スクランブル交流</p> <p>自分の考えが書けた児童から交流する。</p> <p>5. 全体交流</p> <p>・自分の考えを発表する。</p> <p>ゆきのさんは、10が10こで100になり、となりの百の位に移して、100が6こ、10が0こ1が3こで603 (六百三)</p> <p>6. 類題に取り組む</p> <p>705の数カードの数を考える。</p> <p>7. まとめる</p> <p>10が10こあるときは、まとめて100にして、百のくらいにうつす。</p>	<p>【個別最適な学び 2-1】</p> <p>ICT を活用し、100のまとまりを百の位に動かして視覚的に理解できるようにする。</p> <p>【協働的な学び 3-1】</p> <p>ワークシートを見せながら、説明させる。</p> <p>【協働的な学び 3-2】</p> <p>分かりやすい説明をしている児童を意図的指名をし、まとめに繋がるキーワードを引き出す。</p> <p>【個別最適な学び 2-2】</p> <p>評価問題で手が止まっている児童がいたら、デジタルコンテンツを使って解くよう、支援する。</p>
まとめる	<p>8. 評価問題に取り組む</p> <p>・ p 55 練習問題4をワークシートで取り組む。</p> <p>・ p 54 練習問題3 (684、710、308)をタブレットで取り組む。</p> <p>9. 振り返りをする</p> <p>・それぞれの位の数字は、100、10、1が何個あるかを表す。</p> <p>・位の部屋に10は入らない。</p>	<p>【評価規準：知識・技能 1-2】</p> <p>10が10こあるときは、まとめて百の位に移すことがわかる。 (発言・ワークシート)</p>